

第 1 章

背景・目的等

第1章 背景・目的等

1.1 調査研究の背景・目的

少子高齢化や人口減少が進行する中、まちづくりにおける地域の担い手の確保は課題となっており、将来世代である若者の参画は、まちづくりの持続性を確保する上で不可欠となっている。しかし、若者がさまざまな政策形成に十分に参画できているとはいえない現状がある。

若いうちからまちづくりへ参画することは、自分はこのまちの住民であり、我が事として捉える当事者意識の醸成や、地域への愛着や誇りを持つことにつながり、その若者が将来上の世代になった際にも、積極的に関わり続けることが期待される。

さらに、施策立案に若者の新たな視点や発想を取り込むことで、政策の実効性や受容性を高める効果のほか、将来世代の意見を反映することで、持続可能な自治体運営や地域施策の基盤強化にもつながることが期待される。

2023（令和5）年に施行されたこども基本法では、基本理念として自己に直接関係する事項について、こどもや若者の意見を尊重すること等が掲げられ、国や地方公共団体に対し、こどもや若者の意見を反映するための措置を講ずることを義務づけている。これにより、自治体では、企画政策や市民協働部門に加え、こども関連の部門においてもこどもや若者の意見を取り入れる取組が広まっている。

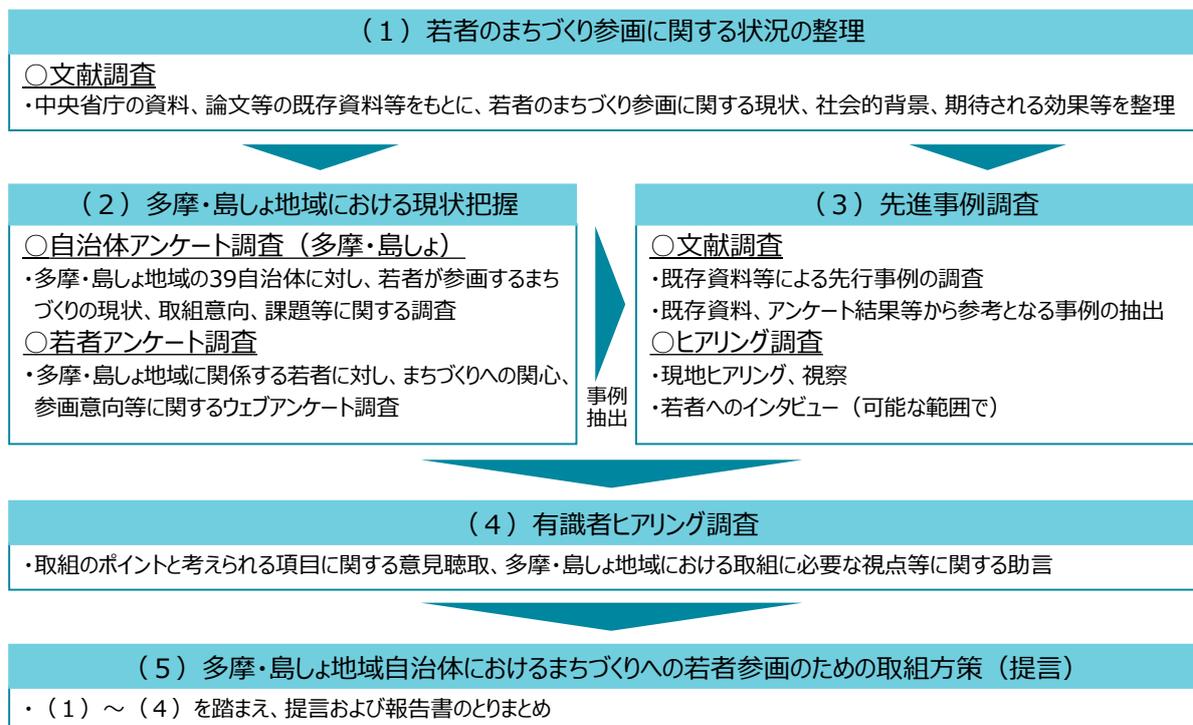
本調査研究では、このように若者がまちづくりへ参画するために、自治体はどのような取組を進めるべきか、全国の先進的な事例の調査等を行いながら、多摩・島しょ地域の政策や将来のまちづくりの検討に資するような提案を目指す。

1.2 調査研究の概要

(1) 調査の全体像

本調査研究の構成と各調査方法の関係は次のとおりである。

図1-1 調査研究の実施フロー



(2) 調査項目の概要

1) 若者のまちづくり参画に関する状況の整理

若者がまちづくりへ参画する社会的背景、現状、期待される効果、関連政策等について、文献調査を実施した。

2) 多摩・島しょ地域における現状把握

① 自治体アンケート調査

多摩・島しょ地域における若者が参画するまちづくりの現状、取組意向、課題等を把握することを目的として、アンケート調査を実施した。

② 若者アンケート調査

多摩・島しょ地域に関わりのある若者（15～39歳で、「①多摩・島しょ地域に居住している」、「②多摩・島しょ地域へ通勤・通学している」、「③多摩・島しょ地域に訪問したことがある」のいずれかに該当する者）を対象に、まちづくり等への参画の現状・意向等を把握するためのウェブアンケートを実施した。

3) 先進事例調査

先進的な取組をしている自治体・団体を対象に、取組の背景・目的等に関する文献調査を実施した上で、特に参考となる事例を抽出し、内容の深掘りと課題や対応策等の把握を目的として、ヒアリング調査を実施した。

4) 有識者ヒアリング調査

学識的あるいは実践者の観点から、必要な視点や留意すべきポイント等、若者のまちづくり参画において必要な要素を把握するために、有識者ヒアリング調査を実施した。

5) 多摩・島しょ地域自治体におけるまちづくりへの若者参画のための取組方策（提言）

調査結果を踏まえた提言を報告書として取りまとめた。